

平成20年度

試験研究課題一覧

平成20年5月

長崎県果樹試験場

目 次

1 . 平成 2 0 年度 試験研究の重点方向

- 1) 試験研究の推進方向.....1
- 2) 平成 2 0 年度 試験研究課題.....2
- 3) 各科の試験研究重点課題.....3
 - (1) 生産技術科
 - (2) 育 種 科
 - (3) 病 害 虫 科

2 . 平成 2 0 年度 新規試験研究課題

- 1) 長崎ブランド「させぼ温州」の特性を発揮する栽培技術の確立.....8
- 2) 気象災害に強い果樹の樹体管理技術の開発.....9
- 3) 機能性の高い発酵茶安定生産のためのピワ葉多収生産技術の確立.....10
- 4) ピワの重要病害虫の効率的管理技術の実証.....11

3 . 平成 2 0 年度 試験研究課題一覧表.....12

平成20年度 試験研究の重点方向

1. 試験研究の推進方向

「ながさき夢・元気づくりプラン」(長崎県長期総合計画後期5か年計画)及び「長崎県農政ビジョン」(後期計画)に即して、多様化する消費者ニーズ、輸入果実の増大等、厳しい果樹情勢に対処するため、「長崎県農林業試験研究の推進構想」に沿って、生産現場の課題解決に直結し、果樹農業者の生産性の向上や地域農林業の振興に役立つ技術の開発と消費者の食品の安全性に対する要望に対応する技術の開発を行う。

1) 長崎ブランド確立を支援する技術開発

本県に適し、高品質で安定した生産が可能な果樹品種の育成や選抜を行う。

品質向上のための革新的な技術開発や地域特性を活かした果樹の安定生産技術を確立する。

2) 省力・低コスト生産技術の確立

果樹農業者の高齢化への対応、ゆとりある果樹経営の定着を図るために、わい性台木等の利用や新しい整枝法による果樹の低樹高化栽培技術の確立に取り組む。

3) 農産物の安全・安心確保のための技術開発

消費者の食品の安全性に対する要望に対応するため、果樹病虫害の発生生態の解明、被害解析及び発生予察技術の開発を行い、耕種的、物理的、生物的防除技術の活用による化学農薬低減技術を確立する。

4) 豊かな環境と持続的農林業のための技術開発

環境負荷の低減を図るため、総合的病虫害管理技術(IPM)の活用による化学農薬低減技術の開発を行う。また、化石燃料の使用量の削減を図るため、加温システムや保温方法の改良による省エネルギー型施設栽培の開発を行う。

5) バイオテクノロジー等を活用した革新的技術の開発

ピワ育種の効率化を図るため主要形質の遺伝解析を行うとともに、バイオテクノロジー、特にDNA解析による新しい育種技術を開発する。また、DNA解析技術を利用した合理的防除法を開発するとともに、機能性成分の同定並びに多様な遺伝資源について、その評価を行う。

6) 緊急的、突発的課題の解決

カンキツ、ピワ、落葉果樹で突発的に発生した生理障害及び病虫害の診断と防止・改善法の検討を行い、生産現場の指導に対応する。

2.平成20年度 試験研究課題

1)長崎ブランド確立を支援する技術開発

(1)カンキツ

カンキツの育種

温州ミカンの新品種の適応性

長崎ブランド「させば温州」の特性を発揮する栽培技術の確立

新資材・新栽培法による温州ミカン品質向上技術の開発

機能性に富む有望中晩生カンキツの高品質果実安定生産技術の確立



長崎県オリジナル品種「させば温州」

(2)ピワ

ピワの育種

ピワ新系統の県内適応性評価

ピワ新品種による超多収・良食味果実の生産技術の確立

茶葉とピワ葉を原料とした高機能発酵茶の新機能解明と実用化に向けた研究



「茂木」に替わる品種として期待される「ピワ長崎15号」(品種登録出願中)

(3)落葉果樹

スモモにおける簡易被覆平棚栽培における大玉果生産技術の実証

温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と省エネルギー型施設栽培の開発

落葉果樹の新品種の適応性

特定果樹の栽培法

- 2) 省力・低コスト生産技術の確立
 - 新資材・新栽培法による温州ミカンの品質向上技術の開発（再掲）
 - 温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と省エネルギー型施設栽培の開発（再掲）
- 3) 農産物の安全・安心確保のための技術開発
 - 温州ミカンにおける化学合成農薬を半減した病害虫管理技術の開発
 - カンキツ病害虫の防除
 - 落葉果樹の重要病害虫防除法
 - 果樹園における植物調節剤の利用法
 - ビワの重要病害虫の効率的な管理技術の実証
- 4) 豊かな環境と持続型農林業のための技術開発
 - 温州ミカンにおける化学合成農薬を半減した病害虫管理技術の開発（再掲）
 - 温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と省エネルギー型施設栽培の開発（再掲）
- 5) バイオテクノロジー等を活用した革新的技術の開発
 - 海外導入遺伝資源を利用したビワがんしゅ病複合抵抗性育種素材の開発
 - ビワの育種（再掲）
- 6) 緊急的、突発的課題の解決
 - 気象災害に強い果樹の樹体管理技術の開発
 - 果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

3. 各科の試験研究重点課題

1) 生産技術科

温州ミカンでは消費者の嗜好の変化に対応するため、優良品種・系統への更新、あるいはマルチ栽培などによる高品質果実の生産を推進してきた。これによって本県産ミカンの評価も高まりつつあるが、カンキツの消費低迷及び産地間競争はますます激しくなっており、商品性の高い高品質果実の生産が強く望まれている。

このような現状に対応し、本県カンキツ産業を振興させるためには、気象変動に対応した高糖度ミカンの安定生産を図る土壌水分制御法の開発とマルチ資材の低コスト化、脱マルチを目指した品質保証果実生産技術及び「させば温州」の安定生産技術の確立が緊急な課題である。また、カンキツ生産農家の経営の安定を図るためにも中晩生カンキツの本県への適応性、栽培技術の確立が重要な課題である。

ビワにおいては、近年、新たに種苗登録された大果で食味がよい「麗月」、「涼峰」など新品種の安定多収技術の確立及び商品性向上のための鮮度保持技術の開発等が課題である。

落葉果樹では、気候温暖化が進む中で施設栽培での早期出荷、安定生産が重要な課題であり、優良品種の導入並びに栽培法の開発が必要である。また、近年台風による樹体被害が多発しており、生産不安定の原因となっていることから、被害を軽減するための樹体管理技術の開発が必要である。

以上のようなことから、平成20年度は下記の試験研究を積極的に推進する。

[温州ミカン]

新資材・新栽培法による温州ミカン品質向上技術の開発

糖度の高いミカンを生産するため透湿性資材を用いたシ・トマルチ栽培が普及しているが、資材費が高く、盛夏時の作業により被覆・除去が重労働となる。また、樹園

地が傾斜地で雨水が浸透しやすく効果が出にくい等の問題がある。そこで、マルチ栽培の低コスト化を図るため、現在使用されている資材と同等の効果があり、安価な土壌被覆資材の選定及び効果の検討、脱マルチ栽培を目指した根域制御法、並びにわい性台木の栽培法、植物調節剤などによる樹体管理技術について検討し、品質保証果実生産技術を開発する。

長崎ブランド「させば温州」の特性を発揮する栽培技術の確立

「させば温州」は、これまでの品種以上に糖度が高くなり着色も優れるなど、果実品質が高まる品種であるが、樹勢が強く結実率が低いことから、産地では思うような生産量が確保できず、その対策に苦慮しているのが現状である。そこで樹体の栄養診断により安定生産に好適な樹相を解明し、樹相診断指標を作成するとともに、簡単で省力的な結実安定のための栽培技術を確立する。また高品質な果実を生産するため、根域制御等を用いた最適水分ストレス誘導技術を開発し、長崎県のオリジナル品種である「させば温州」の更なるブランド化を図る。

[中晩生カンキツ]

機能性に富む有望中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

出荷時期の異なる市場性のある有望中晩生カンキツの本県への早期普及を図るため、新たな系統の果実及び樹体特性を明らかにする。また「せとか」、「麗紅」等有望な新品種の連年安定着果法及び食味向上を図るための土壌水分管理法、貯蔵技術を確立する。

[ビワ]

ビワ新品種による超多収・良食味果実生産技術の確立

本県は全国のビワ生産の3割を占めている主産地であるが、品種構成が「茂木」に偏っており、収穫出荷の作業が集中するため、生産農家の経営規模は零細である。生産される果実は小玉果が多いため単価も低く、収量も少ないため、農家所得も低迷している。このため、高品質な品種を導入し、ビワ経営における品種構成を改善することが緊急な課題となっている。

本試験場では消費者ニーズに応える大果で良食味のビワの育種を行っており、「涼風」、「陽玉」に続き、「麗月」、「涼峰」が品種登録されたのをはじめ、特徴ある形質を持った系統が、今後品種として順次登録される見込みである。

これらは大果で糖度が高く、果肉が柔らかい等、品質的に優れているが、栽培特性については不明な点が多い。これらの品種を現地に早急に普及させ、経営的に魅力あるものにするためには、高品質果実の安定生産技術を確立しなければならない。本研究では、これらビワ新品種を早期に現場に普及させるため、新品種の特性を十分発揮する生産技術を確立する。

[落葉果樹]

温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と低コスト施設栽培の開発

温暖化が進む中で落葉果樹では冬季の低温不足による休眠覚醒の遅れから、着花不足や結実不良が問題となっており、また生育期の高温により着色不良や傷害果の発生が見られている。これらの課題を解決するため、モモの休眠覚醒に有効な薬剤や台木利用技術を確立し、ブドウでは着色促進に有効な栽培技術を開発する。また、化石燃料削減のため、保温性に優れた省エネルギー型施設栽培体系を確立する。

特定果樹の栽培法（新しい果樹の試作）

県の振興対象果樹以外で、今後、需要が見込まれる果樹について試作し、その品種特性並びに栽培特性を明らかにして本県における適応性を明らかにする。

スモモの簡易被覆平棚栽培における大玉果生産技術の実証（新営農）

自家不和合性であるスモモの結実安定と大玉果生産のための、受粉方法、摘果程度、新梢管理法など産地で利用できる技術を実証的に確立する。

[共通]

気象災害に強い果樹の樹体管理技術の開発

本県の重要な作物であるビワは産地が海岸沿いにあるため、台風による潮風害を受けやすい。そのため、潮風害による落葉等の被害を軽減し、災害後の樹勢を早期に回復させる技術を開発する。さらに露地栽培では冬季の寒害により生産が不安定となっていることから、寒害を軽減するための栽培法を確立する。

また、県内の落葉果樹は夏果実としてニーズが高く、各地域の貴重な品目となっているが、近年台風の強風による早期の落葉が生じている。そのため再発芽や不時開花が発生し、樹勢低下や花芽の不充実及び花芽不足となり、翌年の生産量が大きく減少するため、農家経営の不安定要因となっている。そこで、早期落葉により発生するナシやスモモの再発芽や、不時開花の発生要因を解明し、再発芽や不時開花を軽減する樹体管理技術を開発する。

植物調節剤の実用化

果樹における除草剤、植物成長調整剤等の効果を検討し、実用化を図る。

[共同プロジェクト研究]

茶葉とビワ葉を原料とした高機能発酵茶の新機能解明と実用化に向けた研究

緑茶生葉とビワ葉をいっしょに揉捻することにより生産できる機能性が高い茶葉の原料に適したビワ葉の特性や貯蔵方法などを明らかにするとともに、原料として利用できるビワ葉の安定多収生産技術を確立する。

共同研究機関：果樹試験場、総合農林試験場東彼杵茶業支場、工業技術センター、長崎大学、長崎県立大学（シーボルト校）、九州大学（ はりリーダー）

2) 育 種 科

国産果実の端境期である5月から6月に、機能性成分に富み食味が良く多様な消費ニーズに応えるビワを供給し、ビワ産業のさらなる発展とビワ栽培農家の経営の安定化を図ることを目的として品種改良を行う。

ビワは、水資源の少ない暖地の傾斜地で栽培でき、我が国の国土条件を有効利用できる作物であり、その品種改良による産業的発展の可能性と重要性から、昭和48年より農林水産省の育種指定試験として研究が進められてきた。平成18年度から指定試験は公募型となり、大果・高品質・良食味、早熟、日持ち性、病害抵抗性、機能性成分高含有のビワ品種の育成の課題で委託を受け、試験研究を行う。

また、カンキツにおいては、県内外から収集した温州ミカン変異系統の評価を行うとともに、平成16年から実施している「ブランド・ながさき」農産物緊急確立推進事業により本県独自の新品種の育成を進める。

これらの課題を解決するために平成20年度は下記の試験研究を推進する。

[ピワ育種]

(1) ピワ新品種の育成

ピワ第二次育種試験で育成した個体の選抜を進めるとともに、ピワ第三次育種試験の個体群の作出および選抜を進める。また、第3回系統適応性検定試験及び第4回系統適応性検定試験を実施する。

(2) 育種素材の探索、作出と評価

ピワ遺伝資源の収集、保存を行うとともに、それらを用いてがんしゅ病抵抗性、機能性成分（-クリプトキサンチン）高含有、日持ち性等の育種素材の探索または作出を行い、その評価を行う。

(3) 育種関連技術の確立

諸形質の遺伝様式を解明し、それを基礎として、分子生物学的手法も取り入れて早期選抜法の確立を目指す。また、確立してきた組織培養系の保持を行うとともにその利用法について検討する。

(4) ピワ新系統の県内適応性評価

指定試験で育成した有望な新系統について、県内各地における露地栽培及びハウス栽培での基礎的な特性を明らかにする。

[カンキツ育種]

(1) カンキツの育種

温州ミカンの珠心胚実生等を育成し、優良個体の選抜を進める。

(2) 優良品種の探索

県内で突然変異等により発生した優良品種を調査、導入し評価を行う。

(3) 新系統の特性調査

県内外から収集した新品種の特性を明らかにする。

3) 病害虫科

消費者のニーズに対応するための高品質果実及び、安全・安心な果実の安定生産を推進するためには、病害虫の発生生態を解明し、被害解析・発生予察技術に基づき、耕種的、物理的、生物的及び化学的防除技術を合理的に活用した総合管理技術の確立が重要である。このようなことから、平成20年度は下記の試験研究を推進する。

(1) カンキツ、落葉果樹病害虫の防除法確立

薬剤抵抗性害虫・薬剤耐性菌対策、防除コスト低減並びに安全・安心な果実生産に有効な新農薬の実用化を図るため、カンキツ、ピワ及び落葉果樹等の病害虫に対して、新農薬の防除適期、防除効果、薬害等を調査して、その実用性を明らかにし、より効率的な防除法を確立する。

(2) カンキツウイルス・ウイロイド無毒化及び弱毒ウイルス利用による原々母樹の育成

県内で見つかったカンキツの優良品種・系統の各種ウイルス保毒状況を検定し、無毒苗を育成する。あわせてウイルスの再感染を防ぐため利用可能な弱毒ウイルスを探索し、その実用性を調査する。

(3) 特殊病害虫調査

カンキツ等主要果樹の異常発生及び新発生病害虫の発生生態を調査し、防除法を確立する。本年はピワ果実腐敗、アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等の発生生態と防除法を明らかにする。

(4) 温州ミカンにおける化学合成農薬を半減した病害虫管理技術の開発

化学合成農薬の使用量を削減するために、本県果樹生産の中心的品目である温州ミカンを対象に化学合成農薬以外の防除技術（新防除素材及び耕種的・物理的・生物的防除技術等）が病害虫の発生生態に及ぼす影響並びにその防除効果を検討・評価し、これらの有効活用により化学合成農薬を削減した病害虫管理技術体系を構築する。

平成20年度 試験研究課題一覧

部 門	研究の基本課題区分 及び達成目標	研 究	
		大 課 題	中 課 題
カンキツ (栽培法)	・ミカンの生産安定及び品質の向上 シ-トマルチ栽培の資材の検討と脱マルチを目指した品質保証果実生産技術の確立 (1)マルチ栽培の資材選定、検討 (2)脱マルチ栽培による品質保証果実生産技術の開発	1. 新資材・新栽培法による温州ミカン品質向上技術の開発	(1)マルチ栽培の低コスト対策
			(2)脱マルチ栽培を目指した品質保証果実生産技術
温州ミカン (栽培法)	・ミカンの商品性の向上 地域に適した品種の適応性とさせば温州の連年安定生産技術の開発 (1)樹体特性の解明 (2)高品質果実の生産法 (3)連年着果法の開発	1. 長崎ブランド「させば温州」の特性を発揮する栽培技術の確立	(1)栄養診断と結実安定生産技術
			(2)ブランド果実生産技術
カンキツ (病害虫)	・ミカン病害虫の防除 主要病害虫の効率的な防除技術を確立する (1)化学合成農薬によらない防除技術の開発 (2)病害虫防除基準の設定	1. 温州ミカンにおける化学合成農薬を半減した病害虫管理技術の開発	(1)病害虫発生原因の解明
			(2)病害虫の化学合成農薬によらない効率的な防除法の開発
			(3)化学合成農薬を半減した病害虫管理技術の開発
		2. カンキツ病害虫の防除	(1)新殺菌剤の防除効果
			(2)新殺虫剤の防除効果
カンキツ 落葉果樹 (植物調節)	・植物調節剤の安定した使用法	1. 果樹園における植物調節剤の利用法	(1)植物調節剤の実用化
			剤の利用法
中晩生カンキツ (品種選抜)	・中晩生カンキツの安定生産及び品質向上 中晩生カンキツの高品質安定生産による産地、拡大及び栽培技術の確立	1. 機能性に富む有望中晩生カンキツの高品質果実安定生産技術の確立	(1)新系統の適応性
			(2)せとか等の結実管理技術
			(3)食味向上のための糖酸調整法

計 画 細 目 課 題	新継別 試験期間	担 当	予算区分	備 考
根域制限法	平16～20			
ヒリュウ台の検討	平16～20			
栄養診断	新平20～22	生産技術科	県 単	
結実管理技術	新平20～24			
根域・水分管理技術	新平20～24			
現地実態調査	平16～18	病害虫科	県 単	
病害虫発生動態の要因解明	平16～20			
防除法の開発	平16～20			
防除技術の体系化	平17～20			
防除体系の実証と経済性の評価	平18～20			
病害虫管理マニュアルの作成	平18～20			
防除効果等の検討	昭59～	病害虫科	委 託 (日植防) (九防協)	
防除効果等の検討	昭59～			
常緑果樹の除草剤、生育調節剤の実用化の検討	昭52～	生産技術科	委 託 (日植調)	
落葉果樹の除草剤、生育調節剤の実用化の検討	平3～			
新系統の適応性	平16～20	生産技術科	県 単	
連年安定生産法	平16～20			
品質向上法	平16～20			

部 門	研究の基本課題区分 及び達成目標	研 究			
		大 課 題	中 課 題		
ピワ (育 種)	<p>・ピワの新品種育成による生産の拡大</p> <p>新品種の育成・普及によって経営規模の拡大と新産地の育成を図る。</p> <p>(1)早生品種の育成 (2)大果、高品質品種の育成 (3)日持ち性の良い品種の育成 (4)機能性成分高含有品種の育成 (5)病虫害抵抗性品種の育成</p>	1.ピワの育種	(1)ピワ新品種の育成		
			(2)育種素材の探索、作出と評価		
			(3)育種関連技術の確立		
		2.海外導入遺伝資源を利用したピワがんしゅ病複合抵抗性育種素材の開発	(1)複合抵抗性及び良質性個体の選抜		
			3.ピワ新系統の県内適応性評価	(1)第3回系統適応性検定試験	
				(2)第4回系統適応性検定試験	
		カンキツ (育 種)	<p>・本県独自の新品種の育成</p> <p>新たなブランド長崎農産物の早急な産地化を図ることにより園芸農業の活性化を図る。</p>	1.カンキツの育種	(1)新品種の育成、探索
				2.温州ミカンの新品種の適応性	(1)新系統の特性

計 画 細 目 課 題	新継別 試験期間	担 当	予算区分	備 考			
					ピワ第2次育種試験	昭61~	育 種 科
ピワ第3次育種試験	平13~						
第3回系統適応性検定試験	平14~22						
第4回系統適応性検定試験	平17~25						
ピワ遺伝資源の収集・保存と評価	昭48~	育 種 科	国 庫 (指定助成)				
がんしゅ病抵抗性育種素材の探索と作出	平18~22						
-クリプトキサンチン高含有育種素材の探索と作出	平18~22						
日持ち性改良のための育種素材の探索と作出	平18~22						
諸形質の遺伝様式の解明	平16~						
耐病性等の早期選抜法の確立	平16~22						
組織培養系の確立、保持と利用	昭48~						
A、B及びC系統菌複合抵抗性個体の選抜	平19~21				育 種 科	国 庫 (ジーンバンク事業)	
DNAマーカーを利用した良質性個体選抜による育種素材の開発	平21						
現地試験の苗木養成準備	平19	育 種 科	県 単				
露地栽培と施設栽培における特性調査	平19~23						
現地試験の苗木養成準備	平19~20						
露地栽培と施設栽培における特性調査	平19~23						
新品種の育成	平16~20	育 種 科	県 単 (一部国庫)	農産園芸課(「ブランドながさき」農産物緊急確立推進事業)			
有望新品種の探索	平16~20						
本県への適応性	昭49~	育 種 科	県 単				

部 門	研究の基本課題区分 及び達成目標	研 究		
		大 課 題	中 課 題	
ビワ (栽培法)	・ビワの安定多収 新品種や登録が予想される品種の栽培法を確立し、早期普及体制の構築と、新たな品種の特性を活かした超多収技術を開発する。	1. ビワ新品種による超多収・良食味果実生産技術の確立	(1) 超多収技術の開発	
			(2) 良食味果実の栽培法と品質保持技術	
落葉果樹 (品種選抜) (栽培法) (病虫害)	・落葉果樹の生産安定及び品質向上 (1) ナシ新品種の選抜 (2) 温暖化に対応した落葉果樹の安定生産技術の確立 (3) 落葉果樹の重要病虫害防除法	1. 落葉果樹の新品種の適応性	(1) ナシ新品種の特性	
			2. 温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と低コスト施設栽培の開発	(1) 温暖化に対応した施設落葉果樹の安定生産技術
				(2) 異常気象に起因する生育期の障害回避技術
		3. 落葉果樹の重要病虫害防除法	(1) ナシ病虫害の防除	
			(2) ブドウ病虫害の防除	
			(3) モモ病虫害の防除	
		果 樹 (気象災害)	・果樹の気象災害対策	1. 気象災害に強い果樹の樹体管理技術の開発
(2) 落葉果樹の再発芽・不時開花軽減技術の確立				

計 画 細 目 課 題	新継別 試験期間	担 当	予算区分	備 考
傷害果の発生と防止対策	平18～22			
新品種に適した台木の栽培法の確立	平18～22			
果実品質と施設内環境との要因解明	平18～22			
収穫後の食味が低下しない品質保持技術の開発	平18～22			
本県への適応性	平5～	生産技術科	県 単	
安定生産技術の開発	平19～23	生産技術科	県 単	
障害の発生予測と要因の解明	平19～21			
低温期の保温方法の改良と省エネ低コスト栽培の実証	平19～23			
防除法の検討	昭59～	病虫害科	委 託 (日植防) (九防協)	
防除法の検討	昭60～			
防除法の検討	昭60～			
潮風害を軽減させる栽培法の確立	新平20～24	生産技術科	県 単	
寒害を軽減させる栽培法の確立	新平20～24			
再発芽・不時開花発生要因の解明	新平20～23			
再発芽・不時開花発生軽減のための樹体管理法の確立	新平21～24			

部 門	研究の基本課題区分 及び達成目標	研 究	
		大 課 題	中 課 題
果 樹 (突発性病害虫)	・ 優良健全母樹の育成と特殊病害虫調査 (1)果樹ウイルスを無毒化し健全母樹を育成する。 (2)優良健全苗木の供給 (3)異常発生及び新規発生病害虫の原因究明と緊急対策	1. 果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査	(1)ウイルスの無毒化
			(2)無毒ウイルスの利用
			(3)異常発生原因の究明
			(4)新発生原因の解明
特定果樹 (種類選抜) (栽培法)	・ 特定果樹生産指導のための試作開発調査 特定果樹を導入して経営改善と新産地育成を図る。	1. 特定果樹の栽培法	(1)新果樹の試作
新営農	新技術の導入による経営改善と産地育成	1. スモモの簡易被覆平棚栽培における大玉果生産技術の実証	(1)結実促進効果の実証
			(2)大玉果生産の実証
		2. ビワの重要病害虫の効率的な管理技術の実証	(1)ビワ重要病害虫の効率的な管理技術の実証
共同プロジェクト研究	・ 刈り捨てられている緑茶生葉とビワ葉とを有効利用し、画期的な栽培法と製造技術により、新たな健康機能性成分を創出し、食品産業の発展、農業の振興、生活習慣病予防に貢献する。	1. 茶葉とビワ葉を原料とした高機能発酵茶の新機能解明と実用化に向けた研究	(1)機能性の高い発酵茶安定生産のためのビワ葉多収生産技術の確立

計 画 細 目 課 題	新継別 試験期間	担 当	予算区分	備 考
弱毒ウイルスの探索	昭58～			
ウイルス免疫苗の育成	昭58～			
原因の究明と防除法	昭58～			
原因の解明と防除法	昭58～	生産技術科	県 単	農業園芸課
種類の適性	昭58～			
栽培法の実証	昭58～			
器具等を利用した結実促進	平19～20	生産技術科	県 単	農業園芸課
摘果時期の違いによる大玉生産	平19～20			
着果負担の違いによる大玉果生産	平19～20			
新鞘管理の違いによる大玉果生産	平19～20			
ビワ果実腐敗の薬剤防除法の検討	新平20	病害虫科	県 単	農業園芸課
ナシマルカイガラムシの生態に基づいた薬剤散布の効果と薬害の確認	新平20			
高機能性茶葉に適したビワ生産技術	新平20～22	生産技術科	県 単	総合農林試 工業技術センター 長崎大学 農産園芸課 農業改良普及センター
安定多収のための摘採方法	新平20～22			

新：20年度からの新規課題